

「さんべアドベンチャーチャレンジ」

1 趣 旨

- ・自然体験活動を通じて、自然や体験活動に興味、関心を持ってもらうこと。
- ・様々な課題を仲間と共に乗り越えることを通して、自分に自信を持つためのきっかけを得るだけでなく、他者の考え、気持ちを受け入れるきっかけを得ること。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和2年12月26日(土)～12月27日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 後 援 島根県教育委員会
- (4) 対 象 小学校3・4年生
- (5) 参加者 13名 募集12名程度
- (6) 日程

		10:30	11:00	12:00	13:00～14:30	14:30～17:00	17:30	19:00～20:00	20:00～21:00	22:00
12/26 (土) (1日目)	○バス出発(予定) 10:20大田市駅発 10:50交流の家着	入所・受付	ぼうけんの はじまり	昼食	【1stステージ】 チームビルディング ～仲間になろう!～	【2ndステージ】 ～ミッションⅠ～ 「試練にちょうせん! 自然の中で なぜ解きゲーム」	夕食	【3rdステージ】 ～ミッションⅡ～ 「夜のたんけん! ナイトワーク」	入浴	就寝
12/27 (日) (2日目)	6:30 起床	7:00 そうじ・点検	7:30 朝食	8:30～13:00 【4thステージ】 ～ミッションⅢ～ 「山歩きチャレンジ!」	13:00 【Lastステージ】 宝のなぞを解こう!	14:00 ぼうけんのおわり	14:30 解散	○バス出発(予定) 14:45交流の家発 15:15大田市駅着		

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

○9歳以降の小学校高学年の時期における子供の発達において、重視すべき課題としては、「抽象的な思考への適応や他者の視点に対する理解」「自己肯定感の育成」「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」「集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成」「体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくり」が挙げられる。

本事業は、「自己肯定感の育成」「他者の視点に対する理解」「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」の課題解決に向けたきっかけづくりを目指している。

(参考)

【文部科学省ホームページ】「3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」

< https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm >

○「自己肯定感の育成」のため、5つのステージ、3つのミッションに挑戦し、クリアするごとに、宝物が隠されている場所のヒントを得ることができる自然を活用した課題解決型のプログラムを設定し、全ステージクリアすることで、子供たちは達成感を感じるとともに、自己肯定感の向上が図られることを目指した。

○「他者の視点に対する理解」「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」のため、以下2つのことを心がけた。

①【1stステージ】「チームビルディング」の際、班ごとにひとりひとりが楽しく安心して2日

間を過ごすことができるための約束事を作った。方法としては、「楽しく2日間過ごすために、自分が班のためにできること」「楽しく2日間過ごすために、仲間からしてもらったらうれしいこと」「楽しく2日間過ごすために、仲間からしてほしいこと」をアンケート形式（無記名）でとり、共有したものを視覚化できるようにした。

（手法名：ビーイング）（資料1）また、活動ごとにふりかえりを行う際、新たな内容を追記していった。



※模造紙ではなく、パネルを使用したのは、濡れても使用できるようにするため。

- ②活動ごとにふりかえりを行い、意見を言う場、聞く場を意図的に多く設定した。また、ふりかえりを繰り返す行うことで子供のやる気を下げないように、「ぼうけんのはじまり」の際、ストーリー性を持たせた説明を行った。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での活動が制限されてきている状況も踏まえ、本事業のふりかえりは、「書く」ことに着目し、自分の思いを整理し、表現しやすくすることを目指した。
- 自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成研修受講生（以下「スタッフ」という。）の演習の場とし、グループリーダーを担ってもらった。また各グループのふりかえりの進行も担当した。
- 趣旨達成を目指し、プログラムごとの成果目標、スタッフの行動目標、具体的なプログラム内容、流れを把握するための「プログラムデザインシート」、「スタッフの留意事項」を作成し、事業実施前日までにスタッフと共有した。
- 事業当日を安心・安全に実施できるよう事前踏査を実施した。なお、事前踏査に参加できなかったスタッフに対し、オンラインによる打合せを実施した。

（2） 運営のポイント

- 新型コロナウイルス感染症の予防のため、次のことを行った。
 - ・研修室の換気の徹底。
 - ・手洗い及び消毒の徹底。特に、研修の特質上、身体接触を伴う活動の前には、必ずアルコール消毒の実施。
 - ・マスク着用の徹底。ただし、3密を回避できる状況（屋外での活動等）または、身体的負荷を伴う活動の際は、熱中症予防の観点からマスクを外すことも可とする。
 - ・検温の徹底。（入所時、就寝前、起床後）
 - ・食事時間・入浴時間については、他の利用団体と密にならないよう配慮して調整。

4 成果と課題

項目	回答	すごくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
	楽しく過ごすことができましたか？		62% (8人)	38% (5人)	0
自分の考えを言うことができましたか？		31% (4人)	46% (6人)	23% (3人)	0
お友達の話聞くことができましたか？		70% (9人)	15% (2人)	15% (2人)	0
ミッション達成のために自分の持てる力をしっかり出すことができましたか？		70% (9人)	30% (4人)	0	0

《成 果》

- 参加者のアンケート結果から参加者は2日間を楽しく過ごすとともに、自らが持てる力をしっかり発揮することができた。
- 「今回の冒険を通じて、これからの生活に活かしていきたいこと」として、「難しいことでもあきらめない」「何事も一生懸命する」「どんなことでもどんどん挑戦したい」等のアンケート記述から、本事業が、子供たちにとって困難を乗り越える経験とともに、達成感を味わい、自信を持つためのきっかけにつながった。また、「友達が困っていたら助ける」「自分の考えを頑張って言いたい」等のアンケート記述や発言からは、ふりかえりを通じて互いに意見を言い、聞く場を設定するとともに、ビーイングの手法により互いの気持ちを視覚化し共有することで、参加者が「他者」について考え、意識する機会となったと考えられる。
- 事前踏査を通じてスタッフとリスクの洗い出しを行うとともに、事前に「プログラムデザインシート」、「スタッフの留意事項」を作成し、スタッフと共有することで、円滑かつ安全に事業運営を行うことができた。
- ミッションⅠ「試練にちょうせん！自然の中でなぞ解きゲーム」で実施したオリエンテーリングについて、小学校以下を対象とした本所研修支援プログラムとして、プログラム化することとした。

《課 題》

- 本事業のふりかえりは、「書く」ことに着目し、自分の思いを整理し、表現しやすくすることを目指したが、参加者の発達の違いがあり、記述ができる子、記述ができない子、さらに質問の意味が分からないといった個人差が出た。記述をするための設問の見直しやスタッフの声掛け等、効果的なふりかえりが実施できるよう検討していきたい。
- ふりかえりの進行について、スタッフごとに経験値等による能力差が出た。新型コロナウイルス感染症の影響があり、スタッフが集合形式での事前のトレーニングを十分行うことができなかった。今後は、十分なスタッフトレーニングの時間を確保するために、オンラインを活用してのスタッフトレーニングの実施方法についても検討していきたい。



(担当：事業推進係主任 久城 秀太)